

【NPO・ボランティアフェアさかえ2016 開催】

11月22日(火)～12月22日(木)まで住民活動支援センター内で【NPO・ボランティアフェア】を開催しました。栄町の住民活動団体の活動紹介パネルを展示し、団体紹介をしながらアンケートも実施しました。アンケートの内容はボランティア活動に関するものです。アンケートの参加人数は188名でした。

- 今ボランティア活動を行っている人の割合は、はい38% いいえ62%です。
- 「はい」の方で今やっている活動は、福祉に関する活動が37%と多く、自治会や地域サロンなどのまちづくりが19%、清掃、花植えなどの環境活動が19%と続きます。
- 「いいえ」の方で今後やりたい活動はスポーツや趣味を活かした活動、子育てや環境活動などがそれぞれ14%ずつになっています。
- 栄町で元気に住み続けるために「今、わたし

にできること」の設問については、健康に過ごすための自己管理をすることが約半数を占め、祭りやサークル活動、あいさつをするなどして地域や近所の人と仲良く暮らすが僅差で続いています。

今ボランティアを行っていない人も含め、自分で出来る範囲で何かをしたいと思っていることがアンケートから感じられます。多くの人が健康のためのウォーキング、ちょっとできるとごみ拾いを挙げています。毎年ゴミ0運動を自治会等で行われていますが、町全体で楽しみながら、交流しながら行えるゴミクリーン作戦の企画はないでしょうか。一緒に考えて下さいませんか。



アンケート記入中！

お役立ち情報調査隊

＝全国の活動事例＝

全国には、自分たちの住むまちが心地よく、住みやすいまちになるように活動している人たちがたくさんいます。栄町のまちづくりに役立つような事例を紹介します。



子ども食堂

＝広がる「子ども食堂」＝

食事は家でひとり食べるより、みんなでワイワイ食べるほうがおいしい！そんな一見普通のことですが、家庭の事情で充分でない子どもたちがいます。子ども食堂で、温かいごはんを作って待っているのは、ボランティアの大人たちです。寄付された食材で献立を考え調理しています。

こうした活動は古くからありますが、「子ども食堂」という名前が使われ始めたのは2012年から。子ども食堂は、孤食の子ども達やシングルマザーの家庭などを地域で応援する取り組みですが、その役割は食事の提供だけではなく、子どもの遊び場にも学びの場にもなります。みんなで同じものを一緒に食べる場。最近では、地域の全ての子どもや親、大人たちなど、対象を限定しない食堂が増えてきています。子ども食堂を利用する人にとっても、手伝うボランティアにとっても大事な居場所になっています。

のんびる2016・7月号より
近隣では四街道中部ふれあいセンターで12月から「子ども食堂」がスタート。開催は毎月2回、第2、4日曜日の10時～15時まで。食事時間は11時半から13時半まで。「休日のお昼、子どもだけでご飯を食べたい子、今日は手抜きしたいなと思っているおうちの人が、みんなでカレーを食べたい時間を楽しみたい」と声をかけています。

とみさほ ニュースレターより

栄町にも子ども食堂ができると思いますね。一度中部ふれあいセンターの子ども食堂を訪ねてみませんか。